

最終行まで処理したのに、3件足りない

「どこまで」と「何件」を、オイカワ部長たちと整理する

Copyright © 2026 LWP 山中 一弘

本資料は、出典を明記いただければ、商用・非商用を問わず、ご自由に複製・改変・再配布していただけます。なお、著作権表示は改変せず、そのまま記載してご利用くださいますようお願いいたします。

ストーリー

月次の明細を出力し終えたところで、フナさんが照合表を持ってきました。「9件あるはずなのに、出力は6件です」。オイカワ部長とVBA担当のシャケモンが、一緒に処理の終点を確認かめます。

この会話と数値は架空の説明例です。基本の表は1行目が見出し、2～10行目が9件の明細。A列のIDは全件に入り、任意入力のB列の備考は7行目を最後に空欄になっています。フィルターや非表示行は使っていません。

1 全部処理したのに、3件足りない

処理がエラーなく終わっても、必要な明細がそろったとは限りません。まず、元の件数と出力の件数を照合します。



図1 | 「全部」の確認は、完了メッセージだけでは終わらない。

2 調べていたのは、備考列

シャケモンが確認すると、処理はB列を下からたどっていました。B7には備考があり、B8～B10は空欄です。そこで7行目までを処理したため、見出しを除く6件で終わっていました。

調べていたのは、備考列

②

この処理、B列を見ていたんだ。

B列は備考です。空欄でも困りません。

シャケモン

	A	B
1	ID	備考
2	001	確認済
3	002	要連絡
4	...	...
...	...	...
7	006	確認済
8	007	
9	008	
10	009	

最下セル(空)から上へ
End(xlUp) → 7行目

表全体じゃなく、指定した列の末尾だね。

この例では最下行は空欄

図2 | 任意入力の列の末尾と、明細全体の末尾は一致しない。

3 同じ表でも、終点が違う

A列なら10行目、B列なら7行目。同じシートでも、指定する列によって答えが変わります。列を指定して求めた行番号を、そのまま「表全体の最終行」と呼ぶと、前提が抜け落ちます。

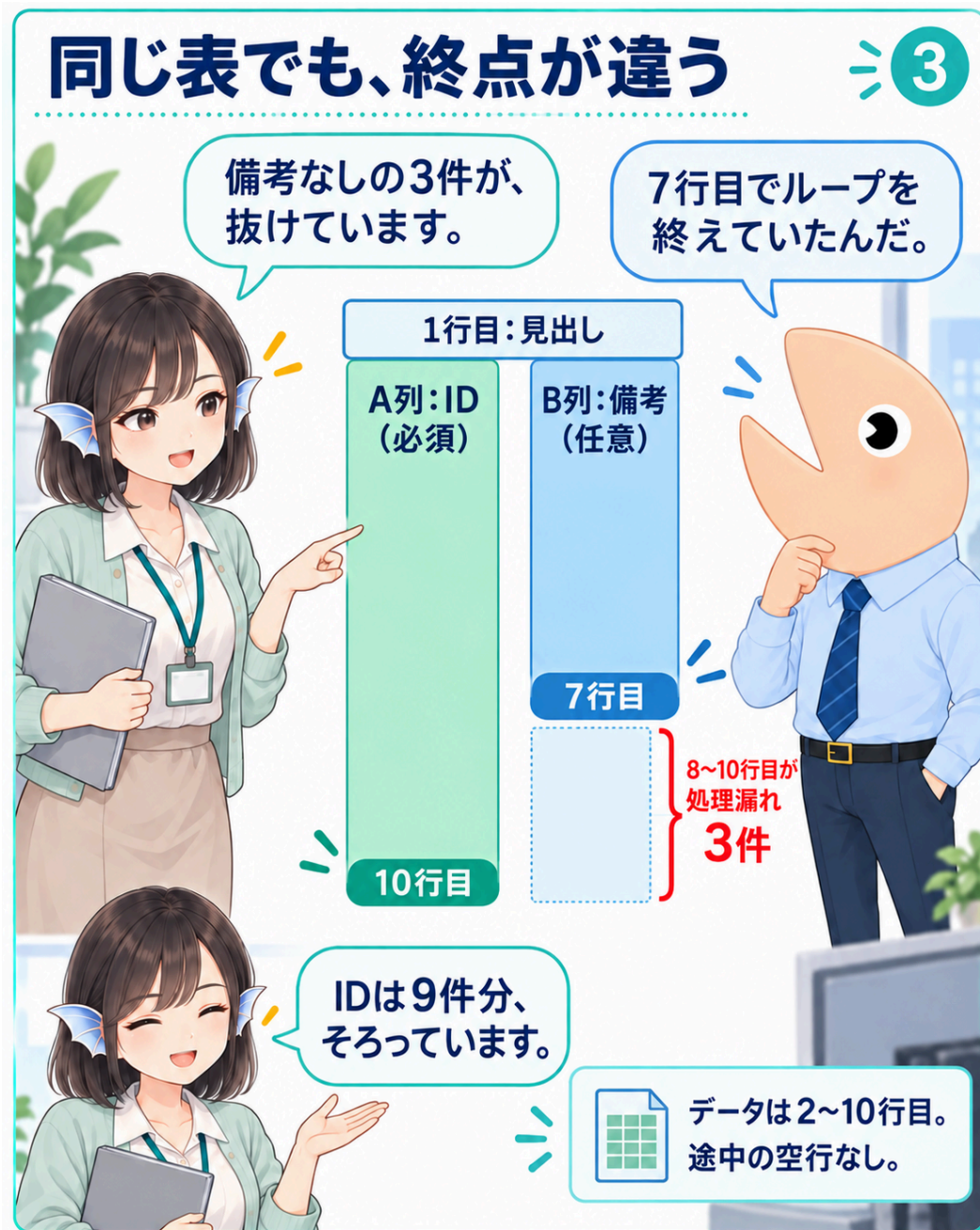
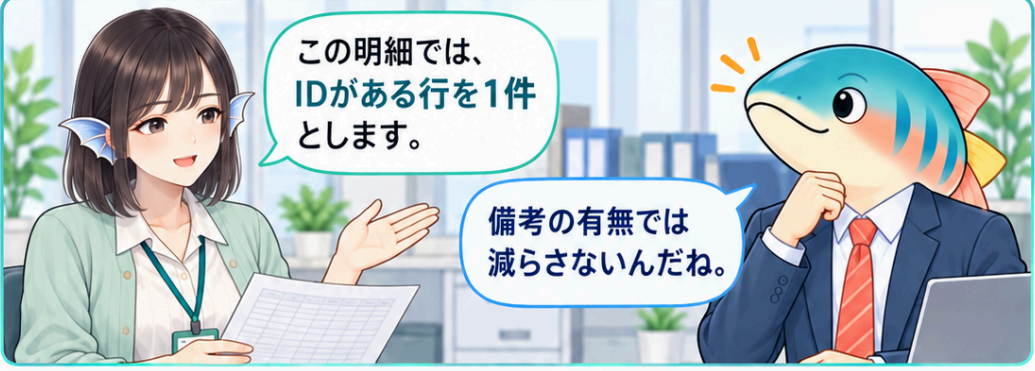


図3 | 最終行の話には「どの列を見たか」が必要。

4 1件の基準を、先に決める

フナさんの業務では、明細にIDが必須で、備考は任意です。その条件を確認してから、処理の基準列を選びます。必須のIDが欠けた行を見つけた場合も、黙って捨てず、照合が必要な行として扱います。

4



この明細では、IDがある行を1件とします。

備考の有無では減らさないんだね。



ID：必須

ID	日付	金額	備考
A001	4/1	8,000	
A002	4/1	12,000	資料代
A003	4/2	5,000	
A004	4/2	9,800	調整
A005	4/3	7,500	

IDがある行を1件として数えます。

備考：任意

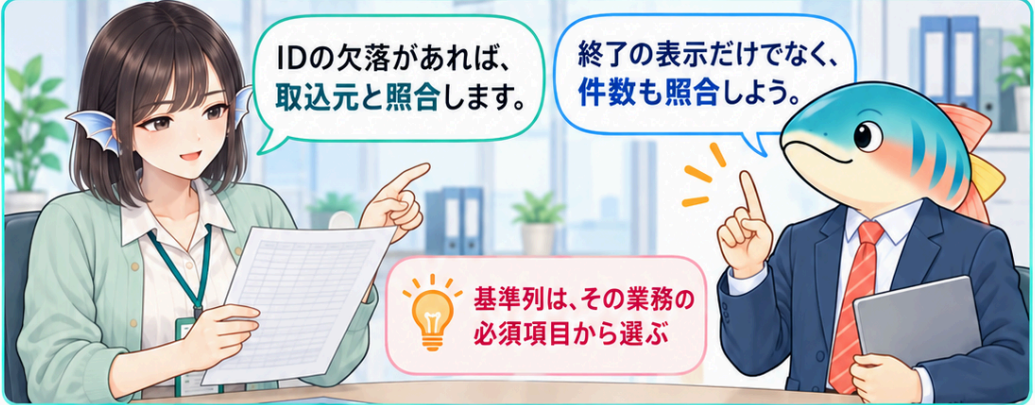
ID	日付	金額	備考
A001	4/1	8,000	
A002	4/1	12,000	資料代
A003	4/2	5,000	
A004	4/2	9,800	調整
A005	4/3	7,500	

備考はあってもなくても件数に影響しません。

処理対象の基準



- ☒ IDがある行 = 1件
- ☐ 備考の有無では減らさない
- ☐ この基準で件数を集計する



IDの欠落があれば、取込元と照合します。

終了の表示だけでなく、件数も照合しよう。

💡 基準列は、その業務の必須項目から選ぶ



図4 | 図中の表は、必須項目と任意項目を示す模式例。

5 空欄に見えても、式がある

ここで別の条件を試して考えます。A20に空文字を返す数式 `=""` が入っていると、表示が空欄でもセルには式が存在します。今回の下からたどる方法では、A20が終点になります。これは20件あるという意味ではありません。

≡

空欄に見えても、式がある

5

A20の表示

19	
20	

↑
最下セルは空

A20の数式

f_x = ""

表示：空文字 / セル内容：数式あり

▶ 20行目 ≠ 20件

図5 | 「空に見える」と「値も式もない」は違う。

6 行番号を、そのまま件数にしない

最終行が10行目でも、明細が10件とは限りません。今回の基本例で9件になるのは、1行目だけが見出しで、2～10行目に明細が連続し、全行が対象だからです。途中に空行や対象外の行がある表では、行番号の差だけでは件数を求められません。

⑥ 行番号を、そのまま件数にしない

最終行が10なら、
10件……ではないね。



1行目は
見出しです。



ID	商品名	金額

10行目 - 見出し1行 = 9件

データは2～10行目に連続。IDの欠落なし。

途中に空行がある場合

IDあり
空行
IDあり

<

行番号の差だけでは
数えない

途中の空行や空文字も、
件数とは分けます。



うん
うん



図6 | 「10 - 1 = 9件」は、この表の条件があってこそその計算。

7 境界の3ケースも確かめる

列が完全に空でも、この方法は行番号1を返します。見出しだけの場合も行番号1ですが、データ件数は0件です。さらに、シートの最下行そのものに値がある場合は、そこを起点に領域の端へ移動するため、単純な「最後の非空セル探し」としては扱えません。

⑦

境界の3ケースも確かめる



1が返っても、
1件とは限りませんね。



列がすべて空

A	B	C

戻る行番号は1
／データ0件

1行目が見出しだけ

A	B	C

戻る行番号は1
／データ0件

シート最下行にも値

A	B	C
...	...	...

Endは連続領域を移動
／最終非空行とは限らない



最下行が埋まる場合も、
別に確認しよう。





通常ケースと境界ケースを分ける



図7 | 通常の表で便利な方法にも、確かめるべき境界がある。

8「全部」の条件がそろった

オイカワ部長とフナさんは、「IDを持つ明細を対象とし、元の明細と出力を照合する」と確認しました。処理の終点を直すだけでなく、何をもって完了とするかも共有できました。



図8 | 「全部できた」と言う前に、対象と照合条件をそろえる。

まとめ

最終行は、調べる列と調べ方によって変わります。まず業務上の1件を決め、必須項目の欠落や数式のある空欄も考慮して終点を選びます。そのうえで、行番号とは別に対象件数と出力内容を照合します。

今回の仕掛け

TakiLibの`rngLastRow`は、指定列をシートの最下行から`End(xlUp)`でたどったセルの行番号を返します。引数を省略すると対象は`ThisWorkbook.ActiveSheet`、列は1列目ですが、この記事の例では誤解を避けるため両方を明示します。

Microsoftの仕様では、`Range.End`は起点を含む領域の端のセルを返す操作です。「業務上の明細を数える関数」ではありません。空文字数式や最下行の扱いが重要になるのは、この移動操作を利用しているためです。

今回のソースコードのサンプル

入力・概要

次のコードは、TakiLibを導入済みのブックに置く、単独で実行できる確認用マクロです。公開安定版3.5.4の通常CP932版`taki3lib.bas`をVBEからインポートし、「明細」というワークシートを用意します。読解用の`taki3libUTF8.bas`をインポートする手順ではありません。
「明細」のA1を「ID」、B1を「備考」とします。A2～A10に9件分のIDを連続して入れ、B7に「確認済」を入れてください。B8以降、A11以降には値や式を入れません。B2～B6の入力有無はこの例の終点には影響しません。出力はVBEのイミディエイトウィンドウで確認します。

サンプルコード 列を指定して最終行を比べる

```
01 Option Explicit
02
03 Public Sub Test_Main()
04     Dim ws As Worksheet
05     Set ws = ThisWorkbook.Worksheets("明細")
06
07     Debug.Print "ID列の終点", taki3lib.rngLastRow(ws, 1)
08     Debug.Print "備考列の終点", taki3lib.rngLastRow(ws, 2)
09 End Sub
```

コードの説明

同じワークシートを渡し、列番号だけを1と2に変えてTakiLibを直接呼び出しています。戻り値はどちらも行番号です。このマクロ自体は明細の出力や件数の集計を行いません。

サンプルコード 直接呼び出す関数の原典抜粋

```
01 Public Function rngLastRow(Optional ByVal a_sheet, Optional ByVal a_col_num)
02     rngLastRow = rngLastRowRange(a_sheet, a_col_num).Row
03 End Function
```

この3行はTakiLibの読解用抜粋です。すでに導入したライブラリと重複するため、ブックへ追加するコードではありません。内部の`rngLastRowRange`は、シートと列番号を補ったうえで、
`a\_sheet.Cells(a\_sheet.Rows.Count, a\_col\_num).End(xlUp)`を返します。

結果

上記の入力条件では、ID列の終点は10、備考列の終点は7になると、ソースと公式仕様から読み取れます。A20に`=""`を入れた別条件では、ID列の終点は20になります。空列・見出しだけの場合はいずれも行番号1です。

掲載コードは今回Excelで実行検証していません。ここに示した値は、確認したソースと入力条件に基づく期待値です。実際の表に適用するときは、必須IDの欠落、空文字数式、対象外の行など、業務の条件を加えて確認してください。

出典メモ

- 元ネタ: TK-074「最終行は『何をデータと呼ぶか』で変わる」(2026年9月7日整理)。
- TakiLib 3.5.4、通常CP932版 `taki3lib.bas` の `rngLastRow` と `rngLastRowRange`。2026年9月27日確認。
- Microsoft Learn「[Range.End property \(Excel\)](#)」。2026年9月27日確認。